

# 水稻新品種「きらみずき」の 栽培技術習得による安定生産と作付拡大

東近江農業普及指導センター

## 【普及活動のねらい】

水稻新品種「きらみずき」は、令和 6 年度に本格デビューを予定しており、令和 5 年度はプレデビュー年になります。「きらみずき」は、環境こだわり農業の取組をより深化させる品種として、栽培方法が限定されています。今後、「きらみずき」が近江米ブランドをけん引する品種となるためには、「きらみずき」栽培の早期普及定着が重要です。

そこで、今年度東近江地域では、令和 6 年度への作付推進に向け、有機質肥料での施肥体系や化学農薬を使用しない病虫害対策による栽培技術習得支援と作付拡大に向けた生産者への働きかけを行いました。

## 【普及活動の内容】

### (1) 東近江管内における栽培の実証

管内 JA や東近江地域農業センターと連携して、管内 11 か所に有機質肥料体系の「きらみずき」栽培実証ほを設置し、生育、収量および品質調査を行いました。

### (2) 令和 5 年度生産者への栽培技術支援

今年度は 39 戸、32.1ha で「きらみずき」が新規に栽培されたことから、各生産者に対し育苗から収穫期にかけて関係機関と連携して巡回指導を行うとともに、実証データをもとに中干しや穂肥施用等、生育ステージに応じた情報を発信し、穂肥と収穫前には現地研修会を行いました。

### (3) 令和 6 年度への作付推進

現地見学会および推進説明会を開催し、令和 6 年度の作付推進を図りました。



写真1 収穫前現地研修会の様子

## 【普及活動の成果】

管内の「きらみずき」の一等米比率は 83.5%と高品質でしたが、平均収量は、初期生育が旺盛になり過ぎたことや登熟後半の栄養不足等により 398kg/10a(188~626kg/10a)となり、生産者や地点でばらつきが大きくなりました(オーガニック栽培除く)。また、作付推進の取組の結果、令和 6 年度は 78.5ha、109 戸で栽培されます。今後は、令和 5 年度の結果を踏まえ、安定した収量と品質が確保されるよう、支援を続けていきます。

### ◎対象者の意見

食味が大変良く、耐倒伏性に優れるため、期待できる品種だと思う。(生産者A氏)